

① 神明神社

神明神社では、天照大神（あまてらすおおみかみ）、天手力男命（あまのぢからのおのみこと）、万幡豊秋津姫命（よろづはたとよきあきづひめのみこと）の神をまつています。天照大神は太陽の神、天手力男命は農作物の神、万幡豊秋津姫命は王室や氏族の祖の神といわれています。

この神社は、今から約350年前、西暦1668年12月6日（江戸時代）に建てられました。神明神社は糠洞地区にもあります。

今でも農作物がたくさんとれるように願う行事が行われています。

そして、神明神社は三重県の伊勢神宮が総本山であり、全国に1万5千社もあります。



② 天王用水

毎年田の水不足に悩んでいる村人の様子を見た柴田長七さんは、明治20年代の初め、川浦川上流の断崖の下に取水口を作り、そこから岩盤をくりぬいて、トンネルから用水を流そうと計画しました。

長七さんは、私財を投じ、すべての工事を手作業で行い、約6か月かけて水が流れるようにしました。

農具や暮らしの道具、野菜などを洗う生活用水でもあります。



③ 高倉神社

高倉神社は疫病除けの神様をまつています。他にも、水難除け、火除け、五穀豊穡のご利益があります。

高倉神社は約420年前の1610年に建てられました。神社の行事は、2月に祈願祭、4月に例大祭、11月に報告祭を行っています。

今はやっていませんが、昔は「競べ馬（くらべうま）」という、馬に乗って競う行事を行っていました。



④ 牛牧の岩山風景

高木山の北面は壮大な岩山風景が広がり、そのふもとの川浦川沿いには100本以上の桜（ソメイヨシノ）が植えられ、3月下旬～4月上旬には見事な桜並木が広がります。

岩肌のあちこちで市の天然記念物ヒカゲツツジの群落を見ることができます。



⑤ 稲荷神社

稲とは「命の根」を意味します。その稲が生える＝いなりということから稲荷神社と名付けられました。

稲荷神社は、稲がたくさん収穫できる神様や商売繁盛の神様をまつています。

稲荷神社は、江戸時代に建てられました。2月には節分祭、12月には除夜祭があります。その他に岐阜県では、海津市の「おちよぼ稲荷神社」も有名です。



⑥ 賀茂神社



賀茂神社では、別雷命（わけいかずちのみこと）という雷除けの神様をまつています。

「賀茂」という名前は、京都にある「上賀茂神社」や「下賀茂神社」が由来しています。

賀茂神社は、1622年に藤原信次によって建てられました。

⑦ 別れの涙笹

伊深の地で修行していた慧玄さん（無相大師関山慧玄）が、時の花園法皇に招かれて京に赴く時、村人や慣れ親しんだ牛が、別れを惜しんで伊深橋のたもとで涙を流したといわれています。そしてその涙が、川沿いに生えていた笹（おかめ笹）にかかって、葉先が枯れたという言い伝えがあります。



⑧ 秋葉神社



秋葉神社は火除けや火伏せの神様をまつています。

また、私たちが生きていくために必要な火の神様もまつています。

「秋葉」という名前は、静岡県にある秋葉山が由来しています。秋葉神社は、全国に1129社もあります。

現在では、関也地区の子供会で、おみこしやもちなげを行っています。

⑨ 伊深小学校

伊深小学校は、1873年（明治6年）に正眼寺境内見桃庵（しょうげんじけいだいけんとうあん）に秀文義校の名で創立されました。

そして、30年後の1903年（明治36年）には字円照（あざえんしょう現在地）に移転しました。

伊深小学校は明治から続く歴史のある小学校です。現在の伊深小学校では、地域と関わるふさと学習などを行っています。

